名古屋市
新たな劇場の基本計画

２０２５年（令和７年）２月

名古屋市

名古屋市新たな劇場の基本計画

-目次-

はじめに …… 1

1　新たな劇場整備の基本的な考え方 …… 2
1－1　現市民会館の概況 …… 2
1－2　新たな劇場の基本理念と基本方針 …… 3
（1）基本理念 …… 3
（2）基本方針 …… 3
（3）新たな劇場と他の文化施設との有機的連携 …… 4
1－3　新たな劇場の方向性 …… 5
（1）現状・課題と目指す方向性 …… 5
（2）新たに導入が必要な機能及び方針 …… 6
（3）新たな劇場の施設構成 …… 9

2　新たな劇場とまちづくりの関係 …… 10
2－1　金山駅周辺のまちづくりと新たな劇場の関係 …… 10
（1）金山地区の位置づけ …… 10
（2）まちづくりのコンセプト …… 10
（3）まちづくりの方向性 …… 10
2－2　文化芸術を活かしたまちづくり …… 14
（1）文化芸術施設等との連携 …… 14
（2）新たな劇場の配置の考え方 …… 14
（3）新たな劇場を核とした文化芸術施策の展開 …… 15

3　整備計画 …… 17
3－1　機能配置イメージ …… 17
3－2　施設の機能・規模等 …… 19
（1）整備エリア別の機能構成 …… 19
（2）ホール機能を担う施設 …… 19
（3）創造・活動拠点機能を担う施設 …… 23
（4）交流機能を担う施設 …… 23
（5）付帯施設 …… 24
（6）その他の事項 …… 25
（7）施設の規模 …… 26
3－3　諸機能配置計画 …… 26
（1）周辺環境との関係 …… 26
（2）諸機能の関連 …… 27

4　管理運営計画 …… 29
4－1　事業計画 …… 29
（1）事業の考え方 …… 29
（2）貸館事業 …… 30
（3）自主事業 …… 31
（4）各エリアの事業展開イメージ …… 33
（5）今後の事業展開のイメージ …… 37
（6）開館準備計画 …… 38
4－2　管理運営主体及び専門家配置・役割 …… 39
（1）組織運営の考え方 …… 39
（2）運営主体パターン …… 40
（3）専門人材の登用 …… 41
（4）運営組織の構成 …… 41
4－3　広報宣伝 …… 43
（1）基本的な考え方 …… 43
（2）今後の検討事項 …… 43
4－4　施設の維持管理 …… 44
（1）基本的な考え方 …… 44
（2）保守点検、改修・設備更新 …… 44
4－5　収支計画 …… 45
（1）基本的な考え方 …… 45
（2）収支項目 …… 45
4－6　事業の評価 …… 45
（1）基本的な考え方 …… 45
（2）評価内容（案） …… 45

5　事業方式 …… 46
5－1　官民連携に向けた基本的な考え方 …… 46
5－2　整備手法 …… 46
（1）事業範囲の考え方 …… 46
（2）整備手法の比較検討 …… 47
5－3　概算事業費・想定スケジュール …… 48
（1）概算事業費 …… 48
（2）想定スケジュール …… 48

用語説明 …… 49

はじめに

本市は、開館から50年以上が経過した名古屋市民会館（以下、「市民会館」）が抱える諸問題を克服するとともに、全市的な文化振興を促進するために、今後の市民会館に求められる役割や位置づけを再考し、新たな劇場の整備のあり方を検討してきました。令和元年度に「市民会館の整備検討懇談会」を設置し、市民の代表や有識者らによる議論を重ね、令和4年2月に「名古屋市新たな劇場の基本構想」を策定し、新たな劇場の整備のあり方をまとめました。

「名古屋市新たな劇場の基本計画」は、基本構想でまとめた新たな劇場の位置付けや役割等に基づき、これまでの検討結果を踏まえて、本市において必要とされる「新たな劇場」の施設構成や規模及びその内容、管理運営に関する具体的な考え方等を示すものです。

今後は、この基本計画に基づき、新たな劇場の整備を進めていきます。

1 新たな劇場整備の基本的な考え方

1－1 現市民会館の概況

現市民会館は、昭和 47 年 10 月に開館し、開館後 50 年以上が経過しています。

本市を代表するホール施設として、大ホール（フォレストホール）及び中ホール（ビレッジホール）の 2 つのホールを有し、長年にわたり市民の文化芸術活動の中核的役割を果たしてきました。

施設名称	名古屋市民会館（Niterra日本特殊陶業市民会館）
所在地	名古屋市中区金山一丁目5番1号
開館年	昭和47（1972）年10月1日
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート（一部鉄筋コンクリート） 地上6階、地下2階、塔屋1階建
面積	敷地面積：14,205 ㎡／建築面積：9,370 ㎡／延床面積：28,245 ㎡

ホール名称	大ホール（フォレストホール）	中ホール（ビレッジホール）
客席	2,291席（車いす席5席）	1,146席（車いす席3席）
舞台概要	舞台面積1,373㎡ （間口20m、奥行21m、高11.5m）	舞台面積1,061㎡ （間口16m、奥行21m、高さ7.2m）
主要用途	オーケストラ、オペラ、バレエ	日本舞踊、民謡、演劇
その他	楽屋7室（洋室） 控室2室（洋室）	楽屋5室（和室） 控室2室（和室）

階数	室名		室数
3階	会議室		3室
2階	レストラン		―
地下1階	リハーサル室		2室
	楽屋及び控室	大ホール	5室
		大・中ホール兼用	2室
		中ホール	9室

１－２　新たな劇場の基本理念と基本方針

新たな劇場の基本構想に基づく基本理念及び基本方針は次のとおりです。

（１）基本理念

ア ミッション

文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）

文化芸術に対する市民の興味を喚起し、これまで劇場に関心がなかった市民にもその魅力を届け、劇場文化を市内に幅広く浸透させることを掲げます。

イ 新たな劇場の目指す姿

人々が楽しみ、引き込まれ、心打たれる
文化の薫り高い名古屋の心つながる象徴拠点

本市の文化芸術を象徴するランドマーク[1]となり、国内外から多くの人々が訪れるデスティネーション[2]を目指します。また、出演者・鑑賞者だけでなく、市民にとって名古屋の誇りであり、文化芸術が活きるまち名古屋の中核施設として市内の文化振興をけん引します。

（２）基本方針

基本方針１｜市民が気軽に訪れる、人と文化芸術の交流結節拠点
～感動と出会い、まちと繋がる、開かれた劇場～

・まち全体に文化芸術によるにぎわいを醸成する「開かれた劇場」
・「いつでも、誰でも、何かを経験できる」文化芸術が身近に感じられる魅力的な空間や機会を提供する劇場
・市民が日常的に訪れる、居心地の良い空間（居場所）を創出する劇場

基本方針２｜国内外から注目され、多くの市民の
誇りと親しみを呼び起こすトップクラスの上演施設

・高品質な劇場文化の鑑賞を通じて市民の文化芸術への関心を高めるため、国内外のトップレベルのクラシック演奏やバレエ公演等を招致可能な音響や舞台等の鑑賞環境を備える劇場
・軽音楽、伝統芸能、クラシック等、多様な演目に触れる機会の提供により、多くの市民が訪れる「きっかけ」を創出する劇場

基本方針３｜市内の多様な文化芸術活動を支え、促進する、
「名古屋発／初」 の文化芸術の中核となる施設

・文化芸術の創造活動拠点として、名古屋ならではの文化芸術を発信する劇場
・文化芸術の普及・育成拠点として、充実したサポート体制を構築することで、名古屋の文化力を底上げする劇場

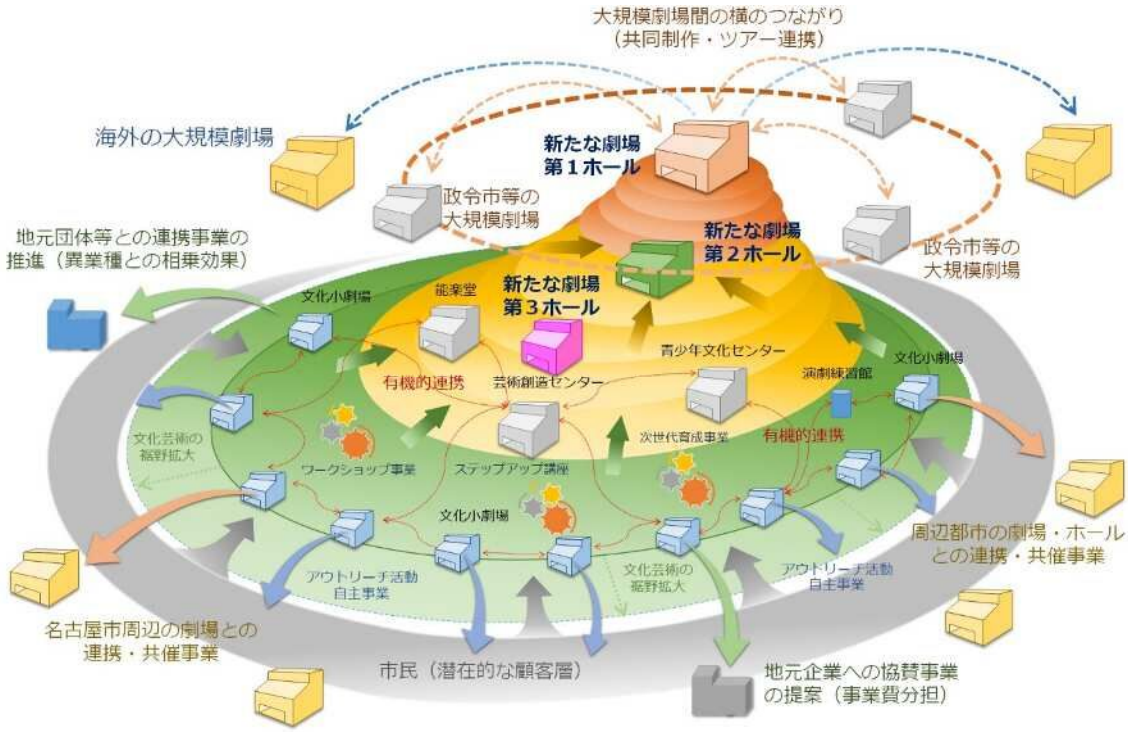
・文化芸術活動の活性化を図り、その集大成を披露する「ハレ舞台」としての存在感を発揮する劇場

（３）新たな劇場と他の文化施設との有機的連携

新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）」を実現するため、市内文化施設のそれぞれの設置目的や役割分担を明確にするとともに、新たな劇場を中心とした文化施設間の有機的な連携により、文化芸術に対する市民の興味・関心の拡大、及び文化団体等の多様な文化芸術活動の促進を図ります。

新たな劇場を「ハレ舞台・名古屋の文化芸術発信拠点」として、市内文化施設の中核に位置付け、芸術創造センターや青少年文化センター等と連携して創造された文化芸術活動が新たな劇場へ集約され、市民文化がより活発に発信される流れや、反対に、新たな劇場で創造された文化芸術活動が、文化小劇場等の地域拠点を通じて市民の身近な所へと広がっていく仕組みを構築します。

さらには、国内外の他都市の大規模劇場とのツアー連携等、劇場同士の横のつながりの強化も図ります。

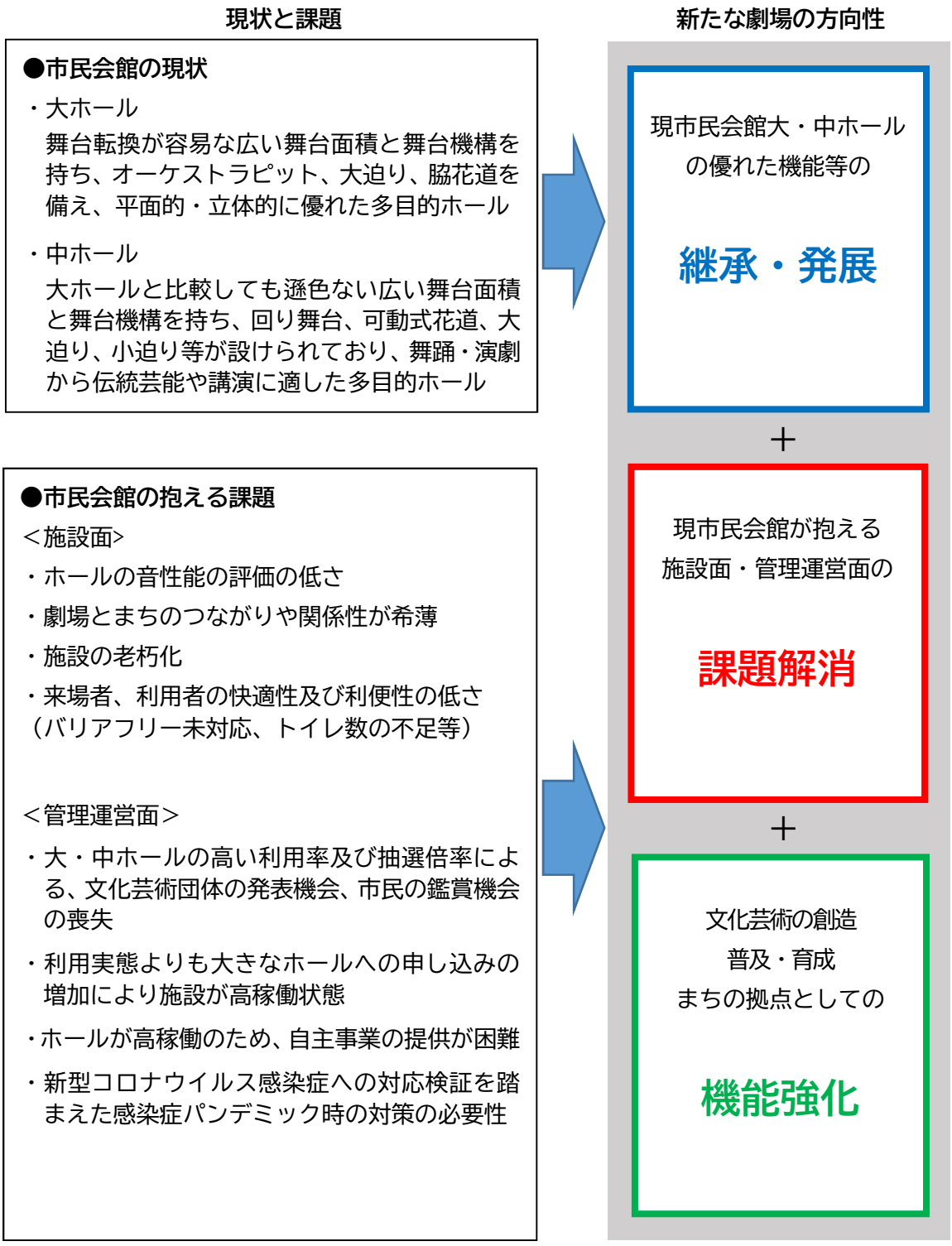


新たな劇場と他の文化施設との有機的連携と文化芸術の裾野拡大のイメージ

１－３　新たな劇場の方向性

（１）現状・課題と目指す方向性

現市民会館の現状と課題を踏まえ、新たな劇場が目指す方向性を示します。



（２）新たに導入が必要な機能及び方針

新たな劇場が、名古屋の文化芸術の中核施設として、全市的な文化振興をけん引するためには、単に現市民会館が抱える諸課題を克服するだけの建替えに留まらず、「文化芸術の創造、普及・育成、まちの拠点」としての機能強化を図る必要があります。

ア　機能強化により目指す姿

（ア） アーティストに開く

本市の文化芸術の中核施設として、若手アーティストや文化芸術団体等との交流や育成を促進します。

（イ） 市民に開く

鑑賞や練習等の目的がなくても、訪れた市民が居心地よく、一日中過ごしたくなるような場所として、気軽に文化芸術に触れられる空間を創出します。

（ウ） まちに開く

まちと連続性のあるハード整備と、金山駅周辺地域における新たな劇場を核とした面的・一体的なソフト施策の展開を行います。

イ　期待される効果

「文化芸術の創造、普及・育成、まちの拠点」としての機能強化が図られ、新たな劇場が基本方針に掲げる施設となることで、アーティストや市民だけでなく、まちや社会にとってもプラスの効果をもたらすことが期待されます。

本市による新たな劇場への戦略的投資により生み出された創造的活動が、新たな文化芸術価値を創出し、文化芸術の裾野が拡大することで、文化芸術への民間投資が更に進み、持続的な文化芸術の発展に寄与することが期待されます。

ウ　新たに導入が必要な機能

新たな劇場を「文化芸術の創造、普及・育成、まちの拠点」として機能強化し、開かれた劇場として期待される効果を発現するためには、現市民会館には備わっていない「文化芸術の担い手の交流・育成を促進する機能」や「市民が文化芸術に気軽に触れることができ、にぎわいを創出する機能」を新たに導入する必要があります。

アーティストに開く	
想定する機能 及び方針	・アトリエやギャラリー、ワークショップ等を開催できるコミュニティスペースを整備することで、文化芸術の総合的支援・育成の場を創出する ・若手アーティスト等の制作支援やアーティストと市民、またはアーティスト同士の相互交流を促進するための機能を整備する
アーティストに もたらす効果	・名古屋の舞台芸術を中心とした文化芸術が活性化することで、アーティスト等の活躍の場が広がり、文化芸術団体の持続的発展への貢献が期待される ・新たな劇場がアーティストにとってチャレンジや成長できる場となり、市全体の文化芸術のレベルアップと一層の活性化につながる

市民に開く	
想定する機能 及び方針	・非公演時やホールの利用者でなくとも、気軽に施設を利用できるよう、歩道や広場・公園等に面してカフェやショップ等の施設を配置し、劇場や周辺地域ににぎわいを創出する ・ロビー等にベンチ等を設置し、来館者の居場所を整備する ・共通ロビー等の共用スペースを貸し出し、ＰＲ展や物販等のイベントを開催できるようにし、空間の有効活用とともににぎわいを創出する ・市民の文化芸術への興味・関心を誘発し文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）を図るとともに、文化芸術活動を支える人材の発掘や育成の場を創出する
市民に もたらす効果	・鑑賞や練習等の目的がなくても、居心地良く過ごしたくなる場となることで、市民が集い、憩い、交流が促進される ・舞台芸術の利用が拡大し、話題性の高い魅力ある公演等、演目のバリエーションが増えることで、市民の文化芸術に対する関心が高まる ・本物の舞台芸術に触れ、創造性や感性を高めることで、子どもたちの成長や次世代の文化芸術の担い手育成につながる

まちに開く	
想定する機能 及び方針	・共通ロビーを通り抜け可能な空間とし、アクセス性と回遊性を高めることでウォーカブルなまちの形成に寄与する ・建物内部と連続性のあるオープンスペースを整備し、憩いの場、交流の場として日常的に人々が滞在できる空間を形成する ・文化芸術活動の様子が建物の外からも見えるような空間構成とし、まちに文化芸術の雰囲気やにぎわいを現す ・周辺の文化芸術施設等と連携し、金山駅周辺地域一体となって文化芸術活動を展開する ・文化芸術活動を劇場内のみならず、屋外でも行うことで、まちのにぎわい創出と周辺地域への文化芸術の浸透を図る
まちや社会に もたらす効果	・文化芸術やエンタメの充実により都市魅力が高まり、観光消費の誘発やまち全体の価値が向上して地域経済が活性化する ・トップレベルの公演の継続的な開催により、本市への来訪意欲が高まり、国内外の来訪者や転入人口の増加が期待される ・アーティストや市民の交流により文化芸術活動が活性化することで、文化芸術・クリエイティブ産業が発展し、新たな地域産業の柱となる

（3）新たな劇場の施設構成

目指す方向性の実現のため、新たな劇場は以下の機能・施設により構成します。

機能	基本コンセプト	施設名称		概要
ホール機能	聴くホール	第１ホール		・本市の文化芸術を象徴し、現在の大ホールが果たしている劇場機能を継承するホール ・音楽を中心とした国内外アーティストの質の高い演奏を「聴くホール」 ・客席数 2,200 席程度を想定
	観る・魅せるホール	第２ホール		・演劇・舞踊から伝統芸能の公演まで、現在の中ホールが果たしている劇場機能を継承するホール ・市民の文化芸術活動のハレの場としても選ばれる「観る・魅せる」ホール ・客席数 1,500 席程度を想定
	体感するホール	第３ホール		・最先端の舞台装置による先駆的な演目や舞台・客席を一体的に使った演出等、演者と観客の一体感を創出する「体感するホール」 ・多様なジャンルの演出に対応 ・客席数 900 席程度（スタンディング時収容人数は 1,800 人程度）を想定
創造・活動拠点機能／交流機能	あらゆる人々の交流結節拠点	スタジオ		・音楽・演劇・ダンス等の練習の場 ・最先端の演出にも対応可能な音響や照明等の設備を備え、本番利用にも対応可能とする ・各ホールのリハーサル室を兼ねる
		練習室		・合唱や吹奏楽、バンド等の電子・電気楽器、ダンス等を練習できる空間
		会議室		・各種会議や研修等、多用途での利用が可能 ・各ホールの控室としても利用可能な配置とする
		共通ロビー		・施設共通のロビー空間 ・鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる、常に開かれた場所
		にぎわい・交流スペース	イベント・コミュニティスペース	・共通ロビーに面した共用部に、日常的にイベント等を開催可能なスペースを設け、にぎわいや交流を創出する
			飲食・物販スペース	・共通ロビーや通りに面した位置に、併設施設としてカフェやショップ等を設け、施設のにぎわいと市民の交流を創出する
			情報スペース	・共通ロビーに面して市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約・発信するスペースを設け、市民が文化芸術に触れる機会を創出する
その他	管理機能（管理事務室、舞台管理事務室、防災関連 等）、駐車場　等			

2 新たな劇場とまちづくりの関係

2－1　金山駅周辺のまちづくりと新たな劇場の関係

（1）金山地区の位置づけ

名古屋市都市計画マスタープラン2030において、金山は都心ゾーンの南端に位置しており、重点的にまちづくりを展開する地域の一つとして位置づけられ、「名古屋駅に次ぐ交通拠点としての機能に加え、商業・業務機能、文化・芸術機能、防災機能などを兼ね備える便利で国際的な交流拠点を形成します。」との方針が掲げられています。金山駅の南地区は、金山南ビルをはじめとする公共空間の整備が先行して行われているのに対し、北地区は平成17年にアスナル金山を暫定整備したものの本格整備には至っていないことや、開館から50年以上経過した市民会館も老朽化等の諸問題を抱えているといった大きな課題が集中しており再整備の必要性が高まっています。

（2）まちづくりのコンセプト

人・文化・芸術とともに育つまち
～ にぎわいと感性あふれる交流創造の場づくり ～

金山地区は、昭和47年に市民会館が開館して以降、文化芸術を鑑賞する機会を得られるまちとして多くの人々が来訪してきました。更に、平成9年には音楽の練習場やサロンを備えた音楽プラザ、平成11年には金山南ビル・名古屋ボストン美術館が開館、平成17年に開業したアスナル金山においても「明日なる！広場」で多くの音楽等イベントが開かれるなど、文化芸術に触れられる施設が集積し、にぎわい創出に大きく寄与してきました。

近年、人々の価値観が「モノ」からこころの安らぎや活力を増大させる「こころの豊かさ」を求めるように変化している中で、快適で充実した生活を創出する一つの要素として、文化芸術の役割の重要度がより一層増しています。

金山駅周辺地域の再整備にあたっては、多様な文化芸術に触れられる環境を創出し、人々に楽しさや感動、安らぎや喜び等、こころの豊かさが感じられ、誰もが希望を持てるまちづくりに取り組みます。

さらに、市内有数の交通結節点という地理的なポテンシャルを十分に活用するとともに、駅周辺の市有地や道路・オープンスペース等のパブリックスペースを有効活用したウォーカブルなまちづくりを進めることにより、これまで培われてきたアスナル金山の界隈性やにぎわいをまち全体に継承・発展させ、名古屋駅や栄など他の地域にない金山の魅力向上を目指します。

（3）まちづくりの方向性

ア　目指す姿

アスナル金山の再整備や新たな劇場の整備とあわせ、交通結節点に相応しい都市機能の集積や多様な文化芸術に触れられるウォーカブルなまちの形成を目指し、金山駅

周辺地域全体の価値向上やブランディングを図ります。

（ア） 都市機能の集積

・交通結節点である金山のポテンシャルを活用し、駅前に都市機能を効果的に集積させ、にぎわいや交流の更なる発展を図ります。
・文化芸術と経済活動の融合を促し、金山の魅力向上を図ります。

（イ） 交通結節点としての機能強化

・駅利用者の利便性向上等、交通結節点としての機能強化を図ります。
・駅南北地区をつなぐ金山総合駅連絡通路橋は、リニューアルにより、高い乗換利便性に加え、情報発信機能やにぎわい交流機能の向上を図ります。
・大規模地震や大雨による災害発生時には、帰宅困難者など幅広い対応が求められることから、地域防災力の強化を図ります。

（ウ） ウォーカブルなまちの形成

・道路やオープンスペース等の都市基盤をウォーカブルなまちに資する空間へ再編することにより、アスナル金山の持つ界隈イメージを継承し、地域全体に拡大を図ります。
・オープンスペースは、市民活動やイベント等の様々な行動ができる空間として開放するなど積極的な活用を図ります。
・まちなかでくつろげる滞在空間・時間を持てる環境の創出を図ります。
・沿道建物の低層部において、新たな発見や様々な活動・交流が生まれるよう機能更新の促進を図ります。
・オフィスワーカーが便利で快適に滞在でき、働く楽しさが感じられるまちなかづくりを行います。
・熱田地区や堀川などの周辺の地域資源も意識した、回遊性向上につながるまちづくりを進めます。

（エ） 人・文化・芸術の交流創造

・本市の文化芸術を象徴し、国内外から多くの人々が訪れる魅力的な空間となる新たな劇場を整備します。
・新たな劇場の３ホールを核として、駅周辺の他の文化芸術施設や地域団体等と連携した面的な文化芸術施策を展開し、文化芸術の浸透を図ります。
・まちに開かれた新たな劇場とまちとの連続性を確保し、文化芸術との交流を育むことで金山らしさの発展・拡大を図ります。
・クリエイターやアーティストをはじめ創造的な活動を行う様々な人材が集い交流し、刺激し合う場の創出を図ります。

イ　エリアの考え方

市有地の整備をより効果的なものとするため、駅南北地区の連携を強化し、駅周辺全体の回遊性・滞在性向上やにぎわいの創出を図ります。

（ア） アスナル金山エリア

・交通利便性を活かした、多様な人が集い楽しむ駅前のにぎわい交流拠点として、金山らしい都市機能を集積させた駅前複合施設を中心とした駅前空間を整備します。
・アスナル金山街区と向田町線北側街区（市民会館街区南側）において、金山総合駅と新たな劇場をつなぐ空間を形成します。
・市民会館街区南側道路の一部区間を廃道し、新たな劇場と一体的な空間創出を図ります。

（イ） 古沢公園・市民会館エリア

・人と文化が行き交う文化芸術交流拠点を目指すため、まちに開かれた新たな劇場を整備します。
・古沢公園街区と市民会館街区の間を通る道路を廃道し、一街区化により新たな劇場と公園の一体的な利活用を図ることで、魅力あふれる空間を形成します。

（ウ） 駅南口エリア

・地域のにぎわい創出の取り組みが継続的に行われるよう、エリアマネジメントにより、地域と協働しながら適切な維持管理を目指します。

（エ） 金山総合駅連絡通路橋

・乗換利便機能に加え駅南北地区のにぎわいをつなぐ施設として利活用を図り、エリアマネジメントの展開を図ります。

（オ） ウォーカブル界隈

・居心地が良く歩きたくなるまちなかを形成するため、公共空間に加え、沿道建物を含む地域全体のグランドレベルのにぎわい創出により、快適に滞在できる界隈を目指します。

ウ 歩行者動線･自動車交通の考え方

（ア） 歩行者動線

・歩行者動線の強化や滞在空間の創出により、グランドレベルの回遊性向上や周囲へのにじみだしを図ります。
・東雲東古渡町線（金山駅から続く古沢公園・市民会館エリア西側の通り）をシンボル軸として位置づけ、金山駅北地区の新たなにぎわいの象徴とします。
・魅力的な景観形成に向け、駅から新たな劇場までの見通しを確保します。

（イ） 自動車交通

・ウォーカブルなまちの形成を見据えた適切な車両動線とします。
・交通結節点として公共交通の自動車動線に配慮し、利便性を確保します。
・金山駅周辺地域の駐車場機能については、公共交通機関利用者の利便性、周辺地域の商業集積の状況及び開発の事業手法を鑑みた対応を図ります。

【金山駅周辺地域のまちづくりの方向性イメージ】

２－２　文化芸術を活かしたまちづくり

（１）文化芸術施設等との連携

金山駅の周辺には、市民会館をはじめ、音楽プラザやアスナル金山の「明日なる！広場」等の音楽を楽しむ施設のほか、駅南口エリアには金山南ビル美術館棟が立地するなど、文化芸術に触れられる施設が集積し、まちのにぎわい創出に寄与しています。

一方で、文化芸術施設によるにぎわいの周辺への広がりは各施設を中心に限定的であり、「人・文化・芸術ともに育つまち」のまちづくりコンセプトの実現にあたっては、金山駅周辺地域に文化芸術が浸透するよう、文化芸術施設間の連携の強化をはじめとして、イベント等に活用できる広場やオープンスペース等の公共空間の整備やまちなかでの文化芸術活動の展開等に取り組む必要があります。

（２）新たな劇場の配置の考え方

新たな劇場は、市内文化施設及び金山地区における文化芸術の中核施設となりますが、金山駅周辺地域においてまちづくりコンセプトを実現し、文化芸術の裾野拡大（劇場文化の浸透）を図るためには、音楽プラザ等の既存の文化芸術施設との連携強化とともに、劇場の主要機能である３つのホールの効果的な配置が重要となります。新たな劇場の３ホールの特性や金山駅周辺地域のエリア特性を考慮して、新たな劇場のホール機能を次のとおり配置します。

エリア	新たな劇場の配置の考え方
古沢公園・市民会館エリア	現市民会館が位置する古沢公園・市民会館エリアに、現市民会館の大ホール及び中ホールが果たしている劇場機能を継承するホールとして、本市の文化芸術を象徴する劇場機能を備える第１ホール及び伝統芸能をはじめ市民の文化芸術活動の発表の場となる第２ホールを配置します。
アスナル金山エリア	市内有数の交通結節点である金山総合駅に隣接しており、商業・業務等の都市機能が集積し、集客性の高いアスナル金山エリアに、先駆的・多目的な利用ができ、実演芸術に適した規模の劇場として多くの需要が見込める第３ホールを配置します。第３ホールは、金山駅周辺地域の中心に位置することから、他のエリアや周辺の文化芸術施設との連携や一体的な取り組みにおいて重要な役割を果たす必要があります。

（３）新たな劇場を核とした文化芸術施策の展開

ア　施策展開の方向性

古沢公園・市民会館エリアとアスナル金山エリアに配置した新たな劇場の３ホールを核として、金山駅周辺地域の他の文化芸術施設や地域団体等と連携した面的な文化芸術施策を展開し、文化芸術の浸透を図ります。

イ　想定される文化芸術の施策展開

施策展開例	内容
金山駅周辺の 文化芸術施設の連携	新たな劇場（3ホール）を中心に、金山駅周辺の文化芸術施設や地域団体が連携した催し等により、文化芸術の推進とまちの回遊性の向上を図る。
劇場施設等の連携	新たな劇場（３ホール）及び音楽プラザが連携するイベントを開催し、文化芸術施設間の交流を図る。
アスナル金山エリア での連携	アスナル金山エリア内で連携して催しや広報を展開し、駅前のにぎわい創出を図る。
金山南ビル美術館棟 との連携	金山南ビル美術館棟の展示内容と関連性が高い催しを第３ホールでも開催し、駅前の集客性を活かした文化芸術の浸透の相乗効果を図る。
広場等を活用した 文化芸術活動	金山駅周辺の広場・オープンスペースを活用したコンサート等をまちなかで展開し、文化芸術の浸透とまちの魅力向上を図る。

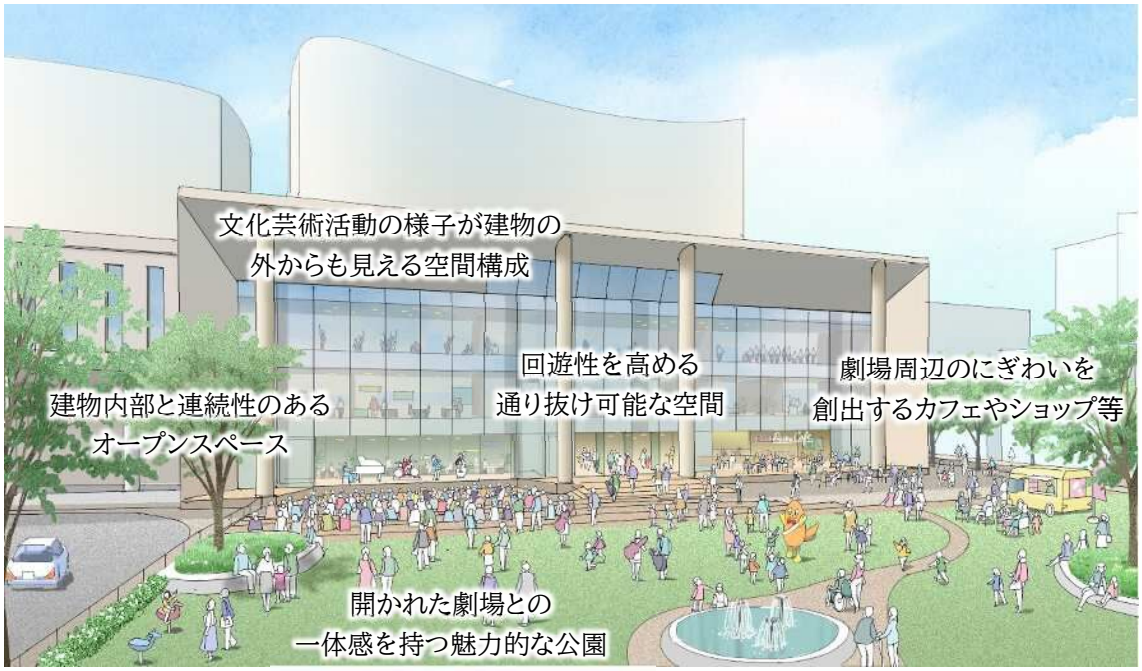
【新たな劇場を核とした文化芸術施策展開のイメージ】

３ 整備計画

３－１　機能配置イメージ

古沢公園・市民会館エリア及びアスナル金山エリアの各機能の配置イメージは次のとおりです。

まちに開かれた劇場のイメージ（古沢公園・市民会館エリア 南側）



まちに開かれた劇場のイメージ（古沢公園・市民会館エリア 北側）

３－２　各施設の機能・規模等

（１）整備エリア別の機能構成

２つのエリアに整備する新たな劇場は、以下の機能・諸室により構成します。

エリア	機能	諸室
古沢公園･市民会館エリア	ホール機能	･第1ホール(2,200席程度) ･第2ホール(1,500席程度)
	創造･活動拠点機能 交流機能	･スタジオ ･練習室 ･会議室 ･共通ロビー ･にぎわい･交流スペース （･イベント･コミュニティスペース ･飲食･物販スペース ･情報スペース）
アスナル金山エリア	ホール機能	･第3ホール(900席程度)
	交流機能	･共通ロビー

（２）ホール機能を担う施設

ア　第１ホール：聴くホール

名古屋における文化芸術のランドマークとなり、国内外から集客する「名古屋の実演芸術の殿堂」にふさわしい空間として、クラシック等の生音をはじめ、ポップスやロックといった軽音楽等の幅広い音楽公演や各種興行公演に対応し、現市民会館大ホールの機能を継承・発展させるホールを整備します。

特に、音響性能については「聴くホール」としてコンサート専用ホールと遜色ない性能を目指し、国内外のトップレベルのアーティストから選ばれるホールとします。

【諸室の計画】

舞　台	・舞台形式はプロセニアム形式[3]とする ・主舞台[4]の寸法は、幅広い演目に対応できるよう間口 20m(11 間)程度、奥行は 21m（11 間）程度とし、側舞台[5]は上下の両側に演技エリア約1面分を確保する ・トップレベルのオーケストラ公演に対応できるよう可動式の音響反射板を設置する ・舞台中央に大迫りを設置する ・客席前部にオーケストラ迫り[6]を設置（オーケストラピット[7]、前舞台[8]、客席として利用）する ・主舞台と同規模の奈落[9]を設置する ・すのこ[10]は仮設作業が可能な作業すのことし、天井高さに配慮する

客　席	・客席数は固定席で 2,200席程度とする ・舞台が見やすい座席配置、ゆとりある座席幅・前後奥行としつつ、舞台からの視距離が極力小さくなることに配慮する ・生音と拡声の両方の鑑賞に対応できる音響空間とする ・多様な公演に対応できるよう常設の脇花道[11]を設置する ・多目的室を複数設け、親子や障害者の鑑賞に配慮する ・車いす席の適切な確保に加え、多様な鑑賞環境を選択できるよう極力配置を分散する ・障害者が障害特性に応じて文化芸術鑑賞しやすい環境を整備する
ホワイエ	・各客席階に十分な広さのホワイエを整備する ・各客席階にEV等を利用して円滑に移動できるようにする ・客用トイレ（バリアフリートイレ含）は利用時間の集中を考慮する ・主催者控室・倉庫のほかに、ビュッフェ[12]、クローク、ロッカー、ドリンクカウンター、授乳室等の来場者サービス用の設備を整備する ・一般的なチケットもぎりのほかチケットレス入場にも配慮する
楽　屋	・総収容人数は4管編成フルオーケストラへの対応を基本とする ・楽屋は可能な限り舞台の同一階かつ近い位置に整備する ・各楽屋階にEV等を利用して円滑に移動できるようにする ・ラウンジ、主催者側スタッフ控室、調音室[13]、グリーンルーム[14]、楽屋事務室、舞台技術者控室、給湯室、洗濯室、倉庫、シャワールームを整備する ・楽屋エリアにもバリアフリートイレを整備する
その他	・搬出入口は、舞台、楽屋等とのスムーズな動線に配慮し、十分な荷捌きスペースを確保する ・ウィングルーフタイプ[15] 11tトラックの複数台の搬出入に対応する ・まちに開かれた劇場としつつ、搬出入の利便性を継承するため、舞台等への搬出入には大型EVを設置する ・雨天、荒天時の作業や、搬出入作業に伴う騒音の低減に配慮する ・十分な広さの舞台備品倉庫、音響器具倉庫、照明器具倉庫、ピアノ保管庫を、可能な限り舞台の同一階かつ近い位置に整備する ・調光操作室[16]、音響調整室[17]を客席後方に整備する ・フロントサイド投光室[18]、シーリング投光室[19]、フォロースポット室[20]、投影室[21]を整備する ・テレビ中継やインターネット配信に配慮する

イ　第２ホール：観る・魅せるホール

現市民会館中ホールの機能を継承・発展させ、演劇や舞踊から伝統芸能まで多様な公演需要に対応するとともに、市民の多様な文化芸術活動を発表するハレの場や話題性が高く魅力のある各種興行公演の場として、市民や興行主から選ばれる「観る・魅せるホール」を整備します。

【諸室の計画】

舞　台	・舞台形式はプロセニアム形式とする ・主舞台間口 16m(9 間)程度、奥行は 21m（11 間）程度、側舞台は上下の両側に演技エリア約1面分を確保する ・多様な音楽公演に対応できるよう可動式の音響反射板を設置する ・舞台転換や演出のための回り盆、迫りを設置する ・主舞台と同規模の奈落を設置する ・すのこは仮設作業が可能な作業すのことし、天井高さに配慮する
客　席	・客席数は固定席で 1,500席程度とする ・舞台が見やすい座席配置、ゆとりある座席幅・前後奥行としつつ、舞台からの視距離が極力小さくなることに配慮する ・生音と拡声の両方の鑑賞に対応できる音響空間とする ・本花道を設置可能とする ・本花道に「すっぽん」迫りを設置する ・多目的室を複数設け、親子や障害者の鑑賞に配慮する ・車いす席の適切な確保に加え、多様な鑑賞環境を選択できるよう極力配置を分散する ・障害者が障害特性に応じて文化芸術鑑賞しやすい環境を整備する
ホワイエ	・各客席階に十分な広さのホワイエを整備する ・各客席階にEV等を利用して円滑に移動できるようにする ・客用トイレ（バリアフリートイレ含）は利用時間の集中を考慮する ・主催者控室・倉庫のほかに、クローク、ロッカー、ドリンクカウンター、授乳室等の来場者サービス用の設備を整備する ・一般的なチケットもぎりのほかチケットレス入場にも配慮する
楽　屋	・総収容人数は4管編成フルオーケストラへの対応を基本とする ・楽屋は可能な限り舞台の同一階かつ近い位置に整備する ・各楽屋階にEV等を利用して円滑に移動できるようにする ・ラウンジ、主催者側スタッフ控室、調音室、グリーンルーム、楽屋事務室、舞台技術者控室、給湯室、洗濯室、倉庫、シャワールームを整備する ・楽屋エリアにもバリアフリートイレを整備する
その他	・搬出入口は、舞台、楽屋等とのスムーズな動線に配慮し、十分な荷捌きスペースを確保する ・ウィングルーフタイプ11tトラックの複数台の搬出入に対応する ・まちに開かれた劇場としつつ、搬出入の利便性を継承するため、舞台等への搬出入には大型EVを設置する ・雨天、荒天時の作業や、搬出入作業に伴う騒音の低減に配慮する ・十分な広さの舞台備品倉庫、音響器具倉庫、照明器具倉庫、ピアノ保管庫を、可能な限り舞台の同一階かつ近い位置に整備する ・調光操作室、音響調整室を客席後方に整備する

	・フロントサイド投光室、シーリング投光室、フォロースポット室、投影室を整備する ・テレビ中継やインターネット配信に配慮する

ウ　第３ホール：体感するホール

様々な演目に対応し、「体感するホール」としてステージ・客席を一体的に演出可能な空間として整備します。

舞台と客席が一体感を感じやすいコンパクトな空間とし、客席は段床形式だけでなくスタンディング形式にも対応可能な設備を導入します。また、多様なジャンルの先駆的な演出にも対応可能な設備を備えたホールとします。

【諸室の計画】

舞　台	・舞台形式はアダプタブル形式（可変形式）とする ・主舞台は間口 15m(8 間)程度、奥行は 15m（8 間）程度、側舞台は上下の両側に演技エリア約半面分を確保する ・すのこは仮設作業が可能な作業すのことし、天井高さに配慮する
客　席	・着席時最大900席程度、スタンディング時1,800人程度とする ・軽音楽等の鑑賞に適した音響空間とする ・舞台が見やすい座席配置、ゆとりある座席幅・前後奥行としつつ、舞台からの視距離が極力小さくなることに配慮する ・多目的室を複数設け、親子や障害者の鑑賞に配慮する ・車いす席の適切な確保に加え、多様な鑑賞環境を選択できるよう極力配置を分散する ・障害者が障害特性に応じて文化芸術鑑賞しやすい環境を整備する
ホワイエ	・各客席階に十分な広さのホワイエを整備する ・各客席階にEV等を利用し円滑に移動できるよう配慮する ・客用トイレ（バリアフリートイレ含）は利用時間の集中を考慮する ・主催者控室、クロークのほかに、スタンディング利用を想定したロッカー、ドリンクカウンター、倉庫等を整備する ・一般的なチケットもぎりのほかチケットレス入場にも配慮する
楽　屋	・総収容人数はミュージカルの興行公演への対応を基本とする ・楽屋は可能な限り舞台の同一階かつ近い位置に整備する ・各楽屋階にEV等を利用して円滑に移動できるようにする ・ラウンジ、主催者側スタッフ控室、調音室、グリーンルーム、楽屋事務室、舞台技術者控室、給湯室、洗濯室、倉庫、シャワールームを整備する ・楽屋エリアにもバリアフリートイレを整備する
その他	・搬出入口は、舞台、楽屋等とのスムーズな動線に配慮し、十分な荷捌きスペースを確保する ・ウィングルーフタイプ11tトラックの複数台の搬出入に対応する

	・搬出入用の大型EVを設置する ・雨天、荒天時の作業や、搬出入作業に伴う騒音の低減に配慮する ・十分な広さの舞台備品倉庫、音響器具倉庫、照明器具倉庫、ピアノ保管庫を、可能な限り舞台の同一階かつ近い位置に整備する ・調光操作室、音響調整室を客席後方に整備する ・フロントサイド投光室、シーリング投光室、フォロースポット室、投影室を整備する ・テレビ中継やインターネット配信に配慮する ・多様なジャンルの新演出に対応可能な舞台設備（舞台機構、舞台照明、舞台音響等）は、最新の機能と高い性能を備え、将来的な拡張性や更新に配慮する

（3）創造・活動拠点機能を担う施設

新たな劇場で公演を行う団体等の公演の質を向上させる場の提供を目的として、用途に応じた広さのスタジオ、練習室及び会議室を整備します。創造・活動拠点での活動の様子が施設内外から覗え、施設全体やまちに活気を与えるような計画とします。

（4）交流機能を担う施設

鑑賞目的のない人でも気軽に訪れることができる「開かれた劇場」のエントランスとなる共通ロビーやにぎわい・交流スペースは、市民・アーティスト間の交流や日常的なイベント開催等、施設全体やまちににぎわいをもたらし、文化芸術の裾野を広げる場とします。劇場内の各施設への誘導、開演までの待機、施設の情報提供、交歓のための場、不特定多数の人々に施設全体を最初に印象づける特別な場として、動線計画と空間づくりに配慮します。

【諸室の計画】

スタジオ	・音楽・演劇・ダンス等の練習の場として整備する ・先進的な設備を備えリハーサルのほか本番利用にも対応可能とする ・大スタジオは第１ホールの舞台と同程度で立稽古可能な広さとする ・中スタジオは第１ホールの音響反射板設置時の演奏エリアと同程度の広さとする ・本番利用や電子・電気楽器の練習にも対応可能な防音・遮音性能に配慮した構造とする ・ホールの楽屋や会議等にも使用できるよう動線に配慮する ・倉庫、更衣室等を整備する
練習室	・音楽・演劇・ダンス等の練習の場として整備する ・電子・電気楽器の練習に対応可能な防音・遮音性能に配慮した構造とする ・ホールの楽屋や会議等にも使用できるよう動線に配慮する ・倉庫、更衣室等を整備する

会議室	・各種会議や研修等、多目的な用途に利用する ・ホールの楽屋にも使用できるよう動線に配慮する ・倉庫等を整備する
共通ロビー	・誰でも気軽に訪れることができる、常に開かれた場所とする ・劇場全体のロビー空間として、来館者が迷わずに各諸室にたどり着ける明快な動線計画とする ・まちの回遊性を高めるため、通り抜け可能な空間とする ・開場前や終演後に観客が滞留できる十分な広さとする ・椅子やテーブル等を設置し、来館者が自由に過ごせるようにする
イベント・コミュニティスペース	・共通ロビーに面してイベントスペースを設ける ・ミニコンサートや展示等、市民活動で利用できる広さや設備とする ・アーティストが集い、交流・創造するスペースや市民が気軽に文化芸術に触れることができるギャラリー等を配置する
飲食・物販スペース	・共通ロビーや通りに面して、市民の来館を促すショップ等や来館者がくつろぎ、交流することができるカフェ等の併設施設を配置し、ホールでの催しがない時にも市民が集い憩えるスペースとする ・併設施設の搬出入のルートに配慮する
情報スペース	・共通ロビーに面して公演情報や市内の文化芸術に関する情報を一元的に集約・発信する情報スペースを設置する

（5）付帯施設

管理事務室や劇場に勤務する舞台技術スタッフのための舞台管理事務室、及び防災関連備品庫等を設けます。

【諸室の計画】

管理事務室	・管理運営スタッフの執務スペースや受付機能、利用者打合せの諸室 ・館長室、会議室、応接室、更衣室、倉庫、給湯室、スタッフ用トイレ等を整備する
舞台管理事務室	・劇場の舞台技術スタッフの執務スペース ・更衣室等を整備する
防災関連備品庫	・災害発生時に金山駅周辺の帰宅困難者を受け入れることを想定する ・帰宅困難者が滞在した場合に対応できる防災関連備品を収納できる広さの備品庫、備蓄倉庫等を整備する
駐車場 駐輪場	・来館者用駐車場は、既存の古沢公園駐車場を有効利用しながら必要な台数を整備する ・車いす利用者用駐車場を施設の出入口付近に整備する ・出演者や関係者用の駐車場を来館者用駐車場と分けて整備する ・搬出入口の近くに大型トラック用の駐車場を整備する ・自転車での来館者用に駐輪場を整備する
機械室	・維持管理に支障のない、適切な規模の機械室とする

（６）その他の事項

ア　インクルーシブ[22]な施設整備・運営

全ての人が受け入れられ参加できる、誰一人排除しない（されない）劇場を目指します。

- 高齢者、障害者、子ども等も含む誰もが安全に支障なく施設を利用できるよう、施設整備・運営の両面でユニバーサルデザインへの配慮を十分に行います。
- 障害者や小さな子どもと一緒に鑑賞可能な多目的室の整備や車いす利用者の鑑賞席の位置等、利用者特性に応じた多様なニーズに対応します。
- 誰でも簡単に施設予約や公演情報の入手ができるよう、アクセシビリティに配慮した運営サービスを目指します。

イ　感染症パンデミック時の対応

新たな劇場の整備・運営においては、感染症パンデミック時の公演にも対応できるよう検討します。

- ストリーミング配信等、映像や通信技術の積極的な活用を図ります。
- 将来のデジタル技術革新にも対応できる拡張性と更新性を考慮します。
- 高い換気能力を持つ高機能な空調設備の導入を検討します。
- チケットレス入場等、施設内の非接触化を検討します。
- 内装材等への抗ウイルス性能を有する素材の採用を検討します。

ウ　災害時の対応

金山駅周辺地域は来街者も多く、大規模な災害が発生した場合には多くの帰宅困難者が見込まれます。さらに、今後の金山駅周辺のまちづくりに伴う来訪者の増加も含めた対応を検討する必要があります。

- 金山駅周辺の帰宅困難者の退避施設として、新たな劇場の共通ロビー（古沢公園・市民会館エリア、アスナル金山エリア）に加え、ホワイエやスタジオ等の開放についても検討します。
- 帰宅困難者が滞在した場合に対応できるだけの量の防災関連備品を倉庫等に備蓄します。また、24時間を超える帰宅困難者の受け入れについても検討します。
- 発災時には新たな劇場の両エリアで密に連絡や調整をしながら、帰宅困難者の柔軟な受け入れを行います。

エ　環境面の対応

カーボンニュートラル[23]の実現に向けて、新たな劇場の整備時だけでなく、運用時においても環境負荷低減を考慮した施設とします。

- 建物の省エネルギー化及び太陽光発電等、再生可能エネルギーの導入を積極的に検討します。
- 雨水の積極的な活用や高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図ります。また、建物の地下に雨水貯留施設を整備し浸水対策に努めます。
- 公園・オープンスペースにおいては、生物多様性緑化に取り組む等、グリーンインフラ[24]の実装に努めます。

（7）施設の規模

新たな劇場の延べ面積は、第１・第２ホールを配置する古沢公園・市民会館エリアに概ね36,500㎡（古沢公園駐車場の面積は含まない）、第３ホールを配置するアスナル金山エリアに概ね9,000㎡を想定します。

なお、第３ホールについては、アスナル金山エリアの施設計画検討の中で面積を確定していきます。

３－３　諸機能配置計画

（1）周辺環境との関係

ア　ランドマーク性

古沢公園・市民会館エリアに整備する劇場は、国内外から金山に訪れる多くの人を劇場へと導く金山駅前のランドマークとなる魅力的な外観を備えた建物とします。また、施設配置や空間計画等の工夫により、周囲の歩行空間や公園・オープンスペースに圧迫感を感じさせない景観やデザインとなるよう配慮します。

イ　公園・オープンスペース

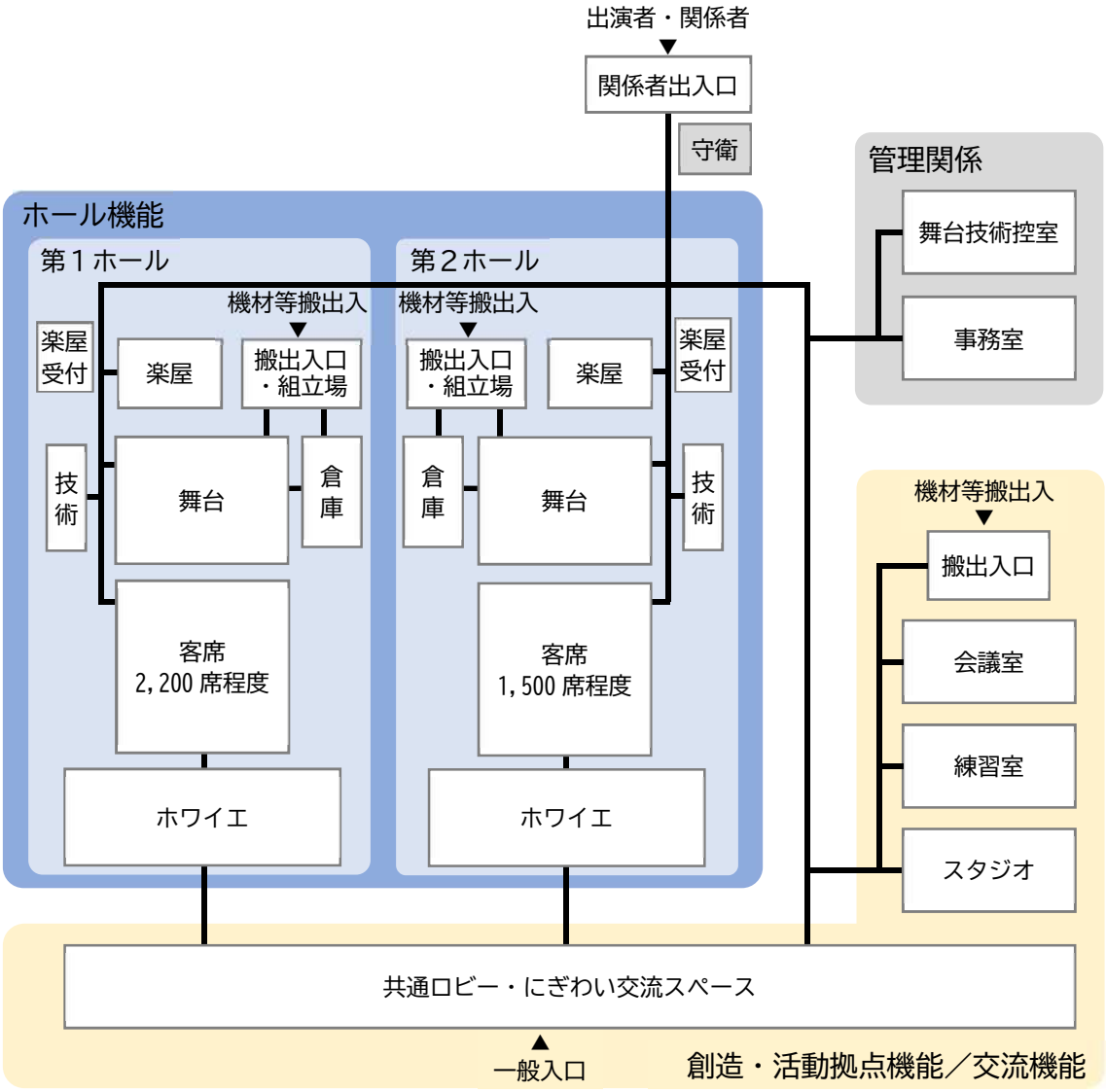
新たな劇場の北側には地域の公園としての機能を維持しつつ、開かれた劇場との一体感を持つ魅力的な公園として古沢公園を活用します。また、敷地内に誰でも気軽に利用でき、文化芸術活動の場としても利用できるオープンスペースを配置します。

ウ　車両出入口

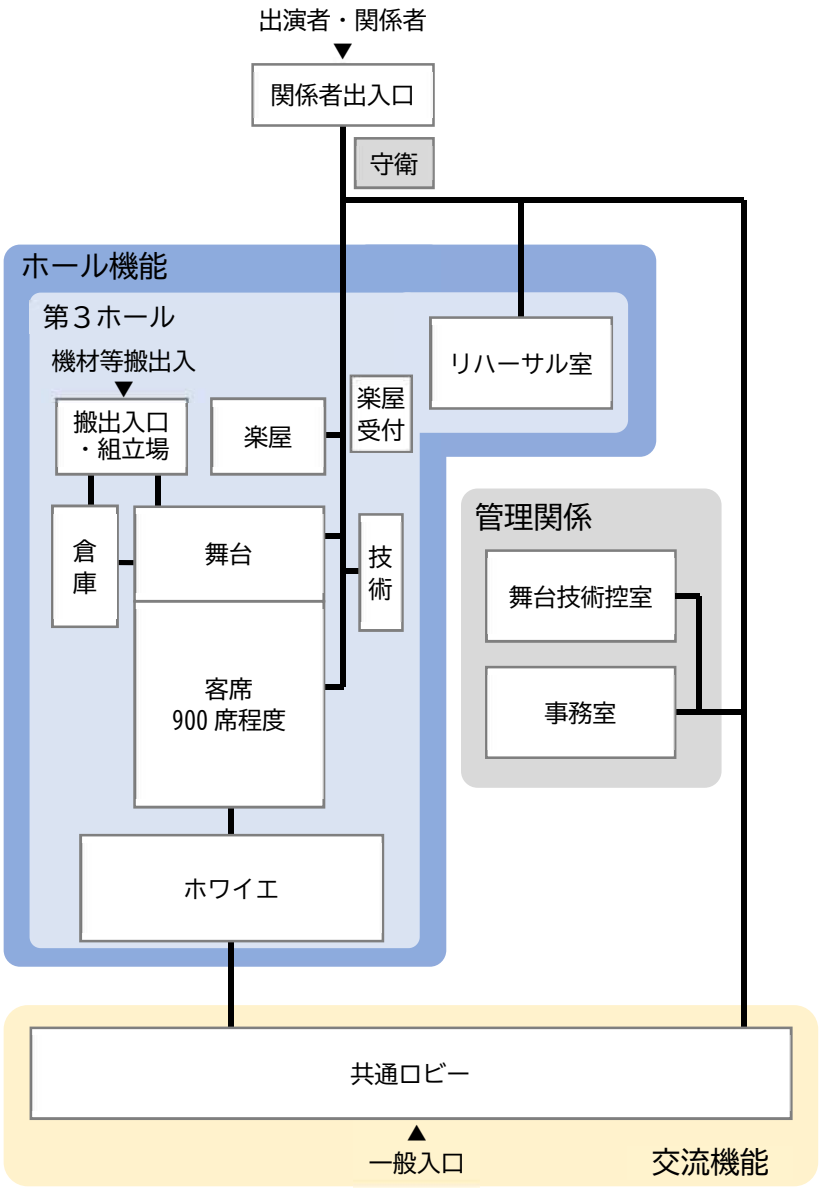
金山駅周辺地域におけるウォーカブルなまちの形成を見据え、シンボル軸の歩行者動線に配慮した搬出入車両や来館車両の出入口の配置を検討します。

（２）諸機能の関連

各施設機能の連携利用に留意し、観客動線と裏動線（バックヤード）の明確な分離や、使いやすさを考慮した施設配置及び動線とします。



古沢公園・市民会館エリア


出演者・関係者
関係者出入口
守衛
ホール機能
第３ホール
機材等搬出入
搬出入口
・組立場
楽屋
楽屋
受付
リハーサル室
倉
庫
舞台
技
術
客席
900 席程度
ホワイエ
管理関係
舞台技術控室
事務室
共通ロビー
一般入口
交流機能

アスナル金山エリア

4 管理運営計画

4－1　事業計画

（1）事業の考え方

新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大」を果たすため、新たな劇場の担う事業プログラムとして「貸館事業」と「自主事業」を実施します。事業区分の考え方は次のとおりです。

現市民会館の利用率が大ホール・中ホールともに高止まりしていることを踏まえ、ホール需要を満たすために貸館事業を中心としながら、ホールや諸室、施設全体あるいは金山のまちと連携した自主事業を、貸館事業とのバランスを図りつつ実施します。

事業区分	内容
貸館事業	・実演団体やプロモーター[25]、地域の文化芸術団体等に施設を貸し出す事業 ・市民へ多様な鑑賞機会を提供するため、積極的にプロ公演への貸し出しを誘致（**戦略的貸館事業**） ・地域の文化芸術団体等への積極的なサポートを実施
自主事業	・施設運営者が主催する舞台芸術を主とした文化芸術に関する事業 ・**「共催」**や**「提携」**等、実演団体やプロモーター等と連携し芸術性や質の高い公演を実施することも含む ・ホールだけでなく、諸室や、施設全体あるいは金山のまちとの連携を想定した事業を実施

（２）貸館事業

ア　基本的な考え方

ホール需要を満たすことを第一としつつ、主体的な貸館運営とするために、貸館事業を「施設利用サービス事業」と捉え、次の３つの方針を軸として検討します。

貸館事業は単に施設を貸し出すだけでなく、積極的に芸術性の高い公演を誘致したり（戦略的貸館事業）、施設利用者へより良い利用方法を提案する等、質の高い貸館事業の実施に努めます。

Ⅰ．文化芸術の裾野拡大につながる利用の拡大
・設置目的の達成に資する柔軟な利用規則の検討 ・人々の興味を誘発する、話題性のある演目の積極的な利用促進

Ⅱ．アーティストの多様な創造活動の受け皿
・先駆的/実験的な試みを伴う創造活動に対する施設利用の積極的促進 ・多様な演出に対応する、柔軟なサービスの提供

Ⅲ．地域文化芸術団体等への積極的なサポート
・市民に寄り添った居心地の良いサービスの提供 ・劇場の特性を踏まえたより良い利用方法の提案

イ　利用規則の方針

現市民会館の高稼働状況を踏まえ、貸館利用と自主事業利用に偏りが生まれない配慮をします。また、予約開始時期については、現市民会館の利用者の意見や、他の同規模施設の事例を参考にしながら検討するとともに、長期利用等の特別申請の受付基準についても検討します。

ウ　今後の検討事項

・休館日、開館時間の検討
・貸出区分の検討
・申込期間や申請方法、利用決定方法の検討
・連続利用日数の検討
・利用料金の設定
・付属設備料金、減免・免除の設定　等

（3）自主事業

ア　基本的な考え方

上位計画や、新たな劇場の基本理念を踏まえ、ホールや諸室、施設全体あるいは金山のまちと連携して実施する自主事業の基本的な考え方について、次の４つの方針を掲げます。

Ⅰ．幅広い世代の興味を誘発する多様な事業の展開
多角的なアプローチにより、幅広い世代へ鑑賞機会を提供

Ⅱ．文化芸術活動における共創を促進
人と人、施設と施設等の「連携」を生み出し、市民が新しい劇場体験を享受できる、多様な文化芸術活動を促進

Ⅲ．文化力を底上げする仕組みの構築
これからを担う若手人材の育成や、シニア世代の文化活動サポート等、多くの市民が劇場を身近に感じられ、毎日が豊かになる機会の創出

Ⅳ．開かれた劇場としての交流機会の創出
誰もが気軽に集える交流機会を提供し、金山のまち独自のにぎわいを創出

イ　自主事業分類と内容

基本的な考え方を踏まえ、自主事業を次のとおり分類します。

新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大」を果たすため、新たな劇場が持つホール機能を活かし、「鑑賞事業」を主要な自主事業として実施します。

また、基本方針の１つである「市内の多様な文化芸術活動を支え、促進する」役割を果たすため、新たな劇場のホール以外の諸室も活用した「創造活動事業」を実施するほか、文化人材育成や施設全体を活用した「普及・育成事業」も実施していきます。

また、古沢公園・市民会館エリアとアスナル金山エリアに配置した新たな劇場の３つのホールを核として、金山駅周辺地域の他の施設や地域団体等と連携してまち全体に文化芸術によるにぎわいを醸成する、「交流・まちづくり事業」についても積極的に実施していきます。

基本的な考え方	分類	内容
Ⅰ．幅広い世代の興味を誘発する多様な事業の展開	鑑賞事業	・バラエティーに富んだ演目で、より多くの人々の興味が誘発される公演を実施 ・他都市との共同・ツアー連携事業を推進し、鑑賞機会を拡充 ・気軽に文化芸術を体感できるオンライン配信を展開
Ⅱ．文化芸術活動における共創を促進	創造活動事業	・新たな劇場を中核とした、アーティスト同士の交流促進/施設間の連携促進 ・新進アーティストやエンジニア等と連携し、先端芸術表現の場を提供 ・障害の有無や年齢、国籍等を問わない、多様な価値観を持つ表現活動を促進
Ⅲ．文化力を底上げする仕組みの構築	普及・育成事業	・市内文化施設と連携した、次世代の実演家・文化芸術を支える人材の育成 ・子どもからシニアまで、老若男女を対象とした新たな体験・挑戦の場を提供 ・オンラインを活用した、世代や時間、場所を問わず学べる機会の提供
Ⅳ．開かれた劇場としての交流機会の創出	交流・まちづくり事業	・金山駅周辺地域の活性化、回遊性を生み出すフェスティバル等の開催 ・オープンスペース、ロビー等で気軽に立ち寄れるイベント等の開催 ・金山独自のカルチャーを活かした新たなデスティネーションの構築

（４）各エリアの事業展開イメージ

ア　古沢公園・市民会館エリア

（ア）　第１、第２ホールを想定した事業

第１、第２ホールは現市民会館の利用状況を踏まえ、プロモーター等への貸館事業を中心としながら、これまで市民に発信できていなかった上質かつ多様な各ホールのコンセプトに合ったコンテンツを戦略的貸館事業として積極的に誘致していくことも目指します。

自主事業は、貸館事業とのバランスを図りながら実施を検討することとし、主催のみならず実演団体やプロモーター等と共催することで、幅広いニーズに応えられる鑑賞事業を実施します。

想定される自主事業（例）

事業分類		想定内容	事業形態	
			主催	共催
鑑賞事業	**〇文化芸術の裾野拡大コンテンツ** ・幅広い世代をターゲットとし、需要が高く、話題性のある上質なコンテンツを国内外から誘致し発信 ・人気アーティストのポップス公演、古典作品等、様々なニーズに応える事業を展開	【第１ホール】 **〇国内・国外コンサート公演** ・第 1 ホールの基本コンセプトである「聴くホール」を活かし、音楽を中心とした国内外アーティストの上質な演奏を提供		
		【第２ホール】 **〇大規模ミュージカル・バレエ公演** ・1,200～2,000 席程度の劇場で上演することが多い大規模ミュージカルやバレエ公演を想定 ・現中ホールで行われている伝統芸能公演も継続的に実施		✔

（イ）　諸室（スタジオ・練習室・会議室）を想定した事業

自主事業では市民参加型ワークショップや各種講座等での会場利用、貸館事業では市民や文化芸術団体の練習や小規模な発表等での利用を想定しています。

想定される自主事業（例）

事業分類		想定内容	事業形態	
			主催	共催
創造活動事業	**〇ソーシャルアート事業** ・様々なアーティストや市民によるワークショップ、アウトリーチ[26]を通して、障害の有無や年齢国籍等を問わない多様な価値観を持つ表現活動を促進	**〇文化芸術団体と連携したワークショップの開催** ・ダンスや演劇等の技術習得を通じて、協調性・問題解決能力・自尊心・コミュニケーション力等を総合的に育むプログラムを実施	✔	✔
普及・育成事業	**〇公開シアタークラス** ・「いつでも、どこでも、だれでも」をコンセプトに文化芸術に触れたことのない人も気軽に劇場やアートについて学べる機会を創出	**〇無料オンラインレッスンクラス** ・老若男女、障害の有無問わず様々な方が気軽に受けられるオンラインレッスン ・機材が充実している諸室での収録、ライブ配信を想定	✔	✔

イ　アスナル金山エリア

（ア）第３ホールを想定した事業

第３ホールは、貸館として市内ホール不足解消の役割を果たしながら、新たな劇場の独自性を発信するホールとして自主事業（主催・共催）枠を全体の約 10%（30 日間程度を想定）確保します。自主事業では「共催」として先駆的な取り組みを実施している団体・施設と連携した事業を展開するほか、テクノロジー、スポーツ、ビジネス等の様々な領域の融合によるコンテンツの誘致・発信を検討します。

貸館事業では、主に現市民会館中ホールで利用の多い演劇公演や軽音楽での利用を想定します。

想定される自主事業（例）

事業分類		想定内容	事業形態	
			主催	共催
鑑賞事業	**〇先駆的・実験的コンテンツ事業** ・幅広い世代をターゲットとし、話題性のある上質なコンテンツを国内外から誘致し発信 ・多様な演目に対応する可変形式の舞台特性を活かし、先駆的・実験的コンテンツを積極的に発信	**〇先駆的・実験的コンテンツ** ・舞台芸術だけでなく、テクノロジー、スポーツ、ビジネス等、様々な領域の融合によるコンテンツの誘致、発信を想定 ・主催/共催事業を通して新たな劇場から「名古屋発/初」の作品を創出	✔	✔
	〇メディア・動画配信サービス事業 ・アーカイブ[27]配信やライブ配信等を用いて、幅広い興味に応える多様なジャンルの公演を展開 ・単なる舞台中継ではなく、オリジナル映像作品も創造	**〇バーチャルステージ** ・360 度カメラやドローン、VR 等、最新技術を用いて収録した作品、パフォーマンスを制作し配信	✔	✔
普及・育成事業	**〇次世代劇場人材育成事業** ・多様なジャンルの人材育成を促進 ・芸術創造センターや青少年文化センター等との共同事業を検討	**〇次世代育成アカデミー** ・アーティスト、プロデューサー、舞台技術者等、これからの文化芸術界を担う若手人材を育成する専属アカデミー ・最新技術を活用した制作・成果発表	✔	✔

ウ　２つのエリアや金山駅周辺地域

（ア）施設全体あるいは金山のまちとの連携を想定した事業

「開かれた劇場」として文化芸術活動、交流を生み出す活動をまちに展開するため、オープンスペースや屋外、まちなか等で幅広い自主事業を実施します。

新たな劇場の第１・第２ホール（古沢公園・市民会館エリア）と第３ホール（アスナル金山エリア）の連携のみならず、アスナル金山や金山南ビル美術館棟といった金山駅周辺に点在する文化芸術施設と連携した事業展開をし、金山駅周辺地域の回遊性の向上、活性化を図ります。

想定される自主事業（例）

事業分類		想定内容	事業形態	
			主催	共催
普及・育成事業	**〇公開シアタークラス** ・「いつでも、どこでも、だれでも」をコンセプトに文化芸術に触れたことのない人も気軽に劇場やアートについて学べる機会を創出	**〇バックステージツアー・制作裏見学会** ・普段目にすることのできない劇場の裏側や、制作現場を積極的に公開し、文化芸術の普及を目指す	✔	✔
交流・まちづくり事業	**〇エリアコラボレーション事業** ・金山のまちの活性化、回遊性を高めるため、金山駅や商業施設、各団体等と連携し、フェスティバル等を開催	**〇エリア全体を活用したフェスティバル** ・アスナル金山や公園・広場等と連携し、金山駅周辺地域の活性化、回遊性を生み出すフェスティバル等の開催	✔	✔
	〇まちかどイベント事業 ・エントランス、屋外広場や近隣施設のスペースを有効活用し、日常的に鑑賞交流機会を創出	**〇オープンスペース等を活用した演奏会** ・共通ロビーに隣接したイベントスペースや劇場外のオープンスペース等で日常的に演奏会を開催	✔	✔

（５）今後の事業展開のイメージ

事業においては、事業期間（PFI方式の場合は15年程度を想定）をひとつのサイクルとして考え、⓪プレ期、①周知・普及期、②定着・育成期、③成長・発展期と確実にステップアップしながら有機的連携体制を構築し、新しい文化芸術を発信していきます。

新たな劇場の主な機能が集積する古沢公園・市民会館エリアにて有機的連携及び文化芸術の裾野拡大の土台づくりを行い、アスナル金山エリアを中心に、まち全体の面的な広がりや新しい文化芸術の楽しみ方の促進を目指します。

今後、各エリアの開業時期を踏まえつつ、具体的な中長期計画の検討を進めます。

〇有機的連携に向けた事業の進め方　※事業エリアの開業時期によって異なる

新たな劇場開館前

⓪プレ期	計画段階より全市的な広報と情報システムの整備を検討。開館前のプレイベントを通して金山全体のまちづくりや市内文化施設や文化団体との連携準備を進める。

新たな劇場開館後

①周知・普及期	市内文化施設や文化団体と連携しながら事業を展開し、新たな劇場のミッションや理念を体現すると同時に、新施設の使い方を市民に伝えていく。
②定着・育成期	有機的連携の定着及び文化活動の活発化を目指す。第3ホールでは新たな劇場の独自性を発信する自主事業を実施し、各ホールの特徴を打ち出していく。
③成長・発展期	新たな劇場に蓄積されたノウハウやネットワークを活かし、他都市大規模劇場との大型提携事業を展開。第3ホールでの実験的コンテンツ公演等が定着、普及し、国内外の新進気鋭アーティストとの共同制作を積極的に展開。

（６）開館準備計画

計画中や建設中から新たな劇場の誕生を市内外に広く周知するため、プレ期において各種イベントの実施を検討します。金山駅周辺地域では、古沢公園・市民会館エリアやアスナル金山エリアの再整備期間中も文化芸術に触れられる機会やまちのにぎわいを維持する事業、市内文化施設等と連携したイベントや開館後の通年事業につながる事業、現場見学会等、開館に向けた機運を醸成する多種多様な取り組みを検討します。

また、古沢公園・市民会館エリア（第１・第２ホール）とアスナル金山エリア（第３ホール）が別々のエリアで整備されることから、開館準備を新たな劇場全体と、それぞれのエリア別に分け、両エリアの整備状況に応じた広報活動を検討します。

〇想定する開業準備の取り組み　※事業エリアの開業時期によって前後する

新たな劇場全体

〇新たな劇場の HP 開設
〇新たな劇場の劇場名称検討
〇新たな劇場のロゴマーク検討

古沢公園・市民会館エリア

〇第1・第2ホールの施設ガイドブック発行
〇第1・第2ホールのこけら落とし公表
〇第1・第2ホールの利用者説明会の実施
〇第1・第2ホールのプレイベント実施
（工事現場ツアーや参加型イベント等）

アスナル金山エリア

〇第3ホールの施設ガイドブック発行
〇第3ホールのこけら落とし公表
〇第3ホールの利用者説明会の実施
〇第3ホールのプレイベント実施
（ホールの独自性を発信するイベント等）

〇新たな劇場全体の施設ガイドブック発行
〇3つのホールや金山駅周辺地域全体を活用し、全街区完成に向けたプレイベントの実施

４－２　管理運営主体及び専門家配置・役割

（１）運営組織の考え方

新たな劇場が本市文化施設の中心となり、市内文化施設と有機的連携体制を構築できる運営組織とするために、次の方針を掲げます。

ア　事業運営体制の構築

・新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大」の達成に資する、安定して継続的に事業を提供し続けることができる体制

・市民へ多様な鑑賞機会を提供するため、積極的に芸術性の高い公演（戦略的貸館事業）を誘致できるノウハウを持った体制

・文化施設の有機的連携の核としての役割を実現できる体制

・市内文化施設のみならず、他都市施設、地域の企業・団体等とも連携できる体制

イ　専門性を持った人材の配置

・新たな劇場の理念を実現するための事業を先導できる高い専門性を持った人材の配置

・文化芸術活動の活性化や水準向上を図るため、地域文化芸術団体等への支援を実施できる専門人材の配置

（２）運営主体パターン

新たな劇場において全市的な事業運営体制を実現する運営主体を検討するにあたり、想定されるパターンは次の表のとおりです。

新たな劇場が果たすべきミッションや役割等を踏まえ、パターン①または②を基本として検討を進めます。

<table>
<tr><th></th><th>パターン①</th><th>パターン②</th><th>パターン③</th></tr>
<tr><td>維持管理</td><td rowspan="4">運営事業者</td><td rowspan="3">運営事業者</td><td rowspan="3">運営事業者</td></tr>
<tr><td>舞台技術</td></tr>
<tr><td>貸館事業</td></tr>
<tr><td>自主事業</td><td>直営・公益法人等へ委託</td><td>直営・
公益法人等へ委託</td></tr>
<tr><td>概要</td><td>自主事業を含め、全てを運営事業者が運営する</td><td>自主事業のうち、市の文化施策的側面の強いものを、市の直営または本市の文化施策を実現する公益法人等への委託により実施する</td><td>自主事業の全部を、市の直営または本市の文化施策を実現する公益法人等への委託により実施する</td></tr>
<tr><td>自主事業のクオリティ</td><td>◎民間事業者のノウハウを活用した新しい事業が期待できる</td><td>○運営事業者が行う事業について、民間事業者のノウハウを活用した新しい事業が期待できる</td><td>△事業に民間のノウハウを活用できない</td></tr>
<tr><td>文化政策の実現</td><td>△事業の仕様を具体的に表さないと市の文化政策の反映がされにくい</td><td>○直営等で実施する事業について、市の文化政策の反映が容易</td><td>◎市の文化政策の反映が容易</td></tr>
<tr><td>自主事業と貸館事業の連携</td><td>◎自主事業と貸館事業の連携が容易</td><td>△直営等で実施する事業と、貸館事業の連携が困難</td><td>△自主事業と貸館事業の連携が困難</td></tr>
<tr><td>事業継続性</td><td>△運営事業者が変更されると事業の継続性が失われる恐れがある</td><td>○直営等で実施する事業について、運営事業者が変更されても事業の継続性が担保される</td><td>◎運営事業者が変更されても事業の継続性が担保される
△単年度予算のため、事業等の長期計画が立てにくい</td></tr>
</table>

（3）専門人材の登用

新たな劇場のミッションである「文化芸術の裾野拡大」を達成するためには、独自の事業展開と同時に、市内の連携を促すことが求められます。専門人材の活用を検討するにあたり、事業の専門人材を次のとおり定義付けます。

今後、事業計画（貸館事業・自主事業）にあわせ、それを実現させるための最適な専門人材の体制を検討していきます。また、舞台技術、広報宣伝、経営等における専門人材のあり方についても検討を進めます。

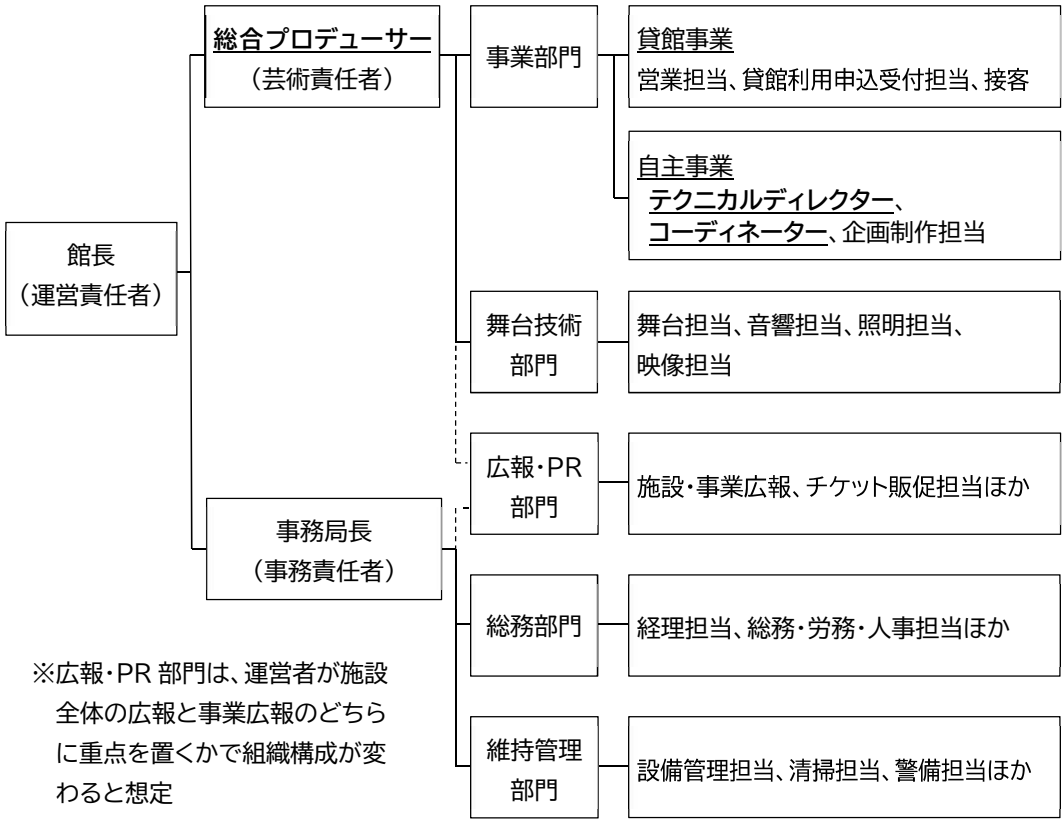
専門人材（仮称）	期待する役割・効果	新たな劇場・市内における位置づけ
総合 プロデューサー	・貸館事業、自主事業全般における新たな劇場の基本理念の達成	・新たな劇場の運営に関して「芸術面と財政面」2 つの視点から事業全般の企画・推進・助言を担う人材 ・限られた専門領域ではなく、アートマネジメント専門家として横断的かつ多角的な視点を持つ人材が望ましい
テクニカル ディレクター	・幅広い世代の興味を誘発する多様な事業の展開 ・文化力を底上げする仕組みの構築	・テクニカルやメディアアート等の専門技術者として、主に第 3 ホールで行われる最先端アートの研究・開発の指導・助言、及び国内外との共同事業や連携事業等を推進する人材
コーディネーター	・開かれた劇場としての交流機会の創出 ・文化芸術活動における共創を促進	・「新たな劇場とまちをつなぐ専門家」として、まちづくりや地域団体等及び名古屋版アーツカウンシル [28] との連携を推進する人材

（4）運営組織の構成

新たな劇場の運営組織として、次の構成を想定します。立地と開館時期が異なる古沢公園・市民会館エリアとアスナル金山エリアを一体的に運営できる組織体制については、今後詳細な検討を進めます。

部門名	概要
事業部門	事業計画立案、企画制作、当日の運営（受付・案内）、貸館業務を担当
舞台技術部門	舞台機構、音響、照明、映像の操作や管理、利用者への技術サポートを担当
広報・PR 部門	施設 HP の管理、チラシ・ポスター等の作成、その他広報宣伝を担当
総務部門	施設にかかる財務、経理、総務・労務・人事を担当
維持管理部門	ビルメンテナンス、テナント管理、保安警備管理等を担当

組織構成のイメージ


館長
（運営責任者）
総合プロデューサー
（芸術責任者）
事務局長
（事務責任者）
事業部門
貸館事業
営業担当、貸館利用申込受付担当、接客
自主事業
テクニカルディレクター、
コーディネーター、企画制作担当
舞台技術
部門
舞台担当、音響担当、照明担当、
映像担当
広報・PR
部門
施設・事業広報、チケット販促担当ほか
総務部門
経理担当、総務・労務・人事担当ほか
維持管理
部門
設備管理担当、清掃担当、警備担当ほか
※広報・PR 部門は、運営者が施設全体の広報と事業広報のどちらに重点を置くかで組織構成が変わると想定

４－３　広報宣伝

（１）基本的な考え方

事業の告知だけでなく新たな劇場の存在・魅力を広く浸透させると同時に、ターゲットにピンポイントで発信する広報宣伝の仕組みを検討します。

ア　全市的プラットフォームによる情報集約・発信

・継続性・公共性のあるワンストップの全市的情報プラットフォームの構築
・名古屋圏域のイベント情報やアーティスト情報、施設概要等の情報を横断的に集約し発信できる仕組みの構築
・アスナル金山エリア（第３ホール）の駅前立地と民間との複合施設であることを最大限に活かし、金山駅周辺地域全体の回遊性向上につながる情報を発信

イ　アーティストの多様な創造活動の受け皿

・最新技術を駆使し、高齢者が使いやすい予約システムや、若者が気軽に購入できるチケットシステム等を導入
・AI 技術によるビッグデータ分析等の手法により、特定のターゲット層へ向けた告知や、需要に応じたストリートビジョン広告等を積極的に展開

ウ　多種多様なメディアの活用

・文化芸術に関心が薄い方々にもイベント情報が届くよう、アプリや SNS 等のネットワークを活用した広報を実施
・地元テレビ局や動画配信サービスと連携し、「劇場×映像」の新しい告知方法を開発し発信

（２）今後の検討事項

・全市的情報プラットフォームの具体的な構築手段
・具体的な広報宣伝媒体・ツール
　【例】広報紙、インターネットや SNS 等の活用、機関紙発行、専門誌等への情報提供、友の会制度・市民サポーター団体等による通信の発行、パンフレット、ポスターの制作
・ネーミングライツの考え方、施設の愛称、ロゴマーク等

４－４　施設の維持管理

（１）基本的な考え方

施設の「安全確保」、「快適空間」、「ランニングコスト縮減」、「設備・備品の長寿命化」の４つの視点より、事後保全、修繕が極力発生しないよう、予防保全による保守修繕計画を立案し、維持管理を行います。

（２）保守点検、改修・設備更新

各種機器等の機能が常時正常に維持できるよう、日常の徹底した安全点検や計画に沿った小規模修繕等、施設や設備の長寿命化の方策を検討していきます。耐用年数、更新時期、更新費用等を調査・検討するなどして機器毎に改修・更新の考え方を示します。特に第３ホールについては、多様なジャンルや新演出に対応し続けられる施設として、最新の機能と高い性能を備えられるよう、将来性・拡張性のある中長期改修計画を策定します。

〇施設維持管理における役割分担案（PFI 方式、事業期間 15 年とした場合）

項目	市	事業者
中長期修繕計画の策定		〇
建築保全業務（予防保全を含む）		〇
エリア内オープンスペース等の維持管理業務		〇
備品及び消耗品の管理・更新業務		〇
施設、設備の修繕（原型を変ずる修繕及び模様替えを除く）		〇
施設、設備の修繕（原型を変ずる修繕及び模様替え）	〇	

４－５　収支計画

（１）基本的な考え方

貸館収入を重要な財源のひとつと捉え、戦略的貸館等を通してこれまで以上に多様なジャンルの利用者獲得を目指します。また、助成金等の外部資金を積極的に活用し、充実した自主事業展開を目指します。

さらに、本市における「劇場文化の裾野拡大」「文化力の底上げ」「まちづくり・ひとづくり」に寄与する施設として、市の支出が“投資”と捉えられるよう、地域に開かれ、質の高い運営を推進します。

（２）収支項目

管理運営に関する収支イメージ（単年度）は次の図のとおりです。効率的な運営を通して経費削減に努め、新型コロナウイルス等の感染症拡大時や災害時等の緊急事態でも健全な施設運営を維持できる収支計画を検討します。

収入	指定管理料	助成金	利用料金収入	自主事業 入場料収入
内訳	運営管理に係る総経費から利用料金収入及び 自主事業入場料収入・助成金を差し引いた金額	国の機関、民間 企業等からの補 助金、助成金等	施設・備品 の貸出料金	チケット代、 参加料等

支出	人件費	維持管理費				事業費
		管理費	光熱水費	事務費	修繕費	
内訳	職員給与等	設備点検、 清掃、警備 等の費用	電気、水道 ガス等の 使用料	通信費、 消耗品費等	小規模修繕 の費用	自主事業経費

４－６　事業の評価

（１）基本的な考え方

新たな劇場の基本理念を達成するためには、事業評価等による施設の運営状況の確認・改善や、事業方針の検討・見直しを定期的に行う必要があります。他都市事例等も参考に、名古屋版アーツカウンシルによる評価可能性の検討等、評価を行う体制や評価基準等を今後幅広く検討していきます。

（２）評価内容（案）

・自主事業や貸館事業の実施を通じて、基本理念の達成にどの程度役割を果たしているか等、施設としての役割に関する評価
・施設利用者へのホスピタリティやサービス、施設の安全体制等、施設管理運営に関する評価
・運営者の経営体制や経営努力等、経営（マネジメント）に関する評価　　等

５ 事業方式

５－１ 官民連携に向けた基本的な考え方

公共施設等の整備に関し、民間ノウハウを活用して経費の削減を図るといった効率的・効果的な事業実施や、新たな事業機会の創出及び民間投資の喚起による経済成長に資するよう民間活力を活用していくことは重要であり、本市においても、民間でできることを民間に委ねることを基本として、民間活力の積極的な導入を推進しています。

基本的な考え方を踏まえ、新たな劇場の整備にあたり適切な民間活力の導入方法について検討します。

５－２ 整備手法

（１）事業範囲の考え方

２－２（２）で示したとおり、新たな劇場の３つのホールの内、第１・第２ホールは古沢公園・市民会館エリアに、第３ホールはアスナル金山エリアにそれぞれ整備します。

古沢公園・市民会館エリアは、現市民会館を含む市有地単独での再整備であるのに対し、アスナル金山エリアは、市有地の他に民間の土地・建物を含む再整備となることから、両エリアを２つの事業範囲として設定し、それぞれに適切な事業手法を検討することとします。

また、２－２（３）で示した「新たな劇場を核とした文化芸術施策の展開」を実現するためには、核となる３つのホールの緊密な連携が必須であることから、３つのホールの管理運営については一体的に行うことを前提とします。

これを踏まえ、本章では古沢公園・市民会館エリアにおける新たな劇場の整備手法について整理します。

なお、アスナル金山エリアに配置する第３ホールの整備手法及び、両エリアの詳細な管理運営計画に関しては、金山駅周辺まちづくり計画等を踏まえ、金山駅周辺のまちづくりと連携しながら、一体的に検討していきます。

（２）整備手法の比較検討

新たな劇場の整備手法については、民間事業者への意向調査の結果等も踏まえ、従来方式(指定管理)、DB＋O 方式(指定管理)、PFI(BTO)方式を想定します。各方式のメリット・デメリット及び VFM を比較検討した結果、最も総合評価の高い PFI(BTO)方式を基本として検討を進めていきます。

方式	①従来方式（指定管理）	②DB＋O 方式（指定管理）	③PFI(BTO)方式
概要	・施設の設計、建設、維持管理、運営の全てを市が実施	・設計、建設等を一体の業務として市が一括発注	・民間資金を活用し、設計、建設後に所有権を市に移転
VFM	―	7.15%	6.45%
メリット	・市の意向を直接反映した施設計画・整備が容易 ・政策方針に沿った機動的な対応が容易 ・公募・選定に係る手続きは比較的短い	・施設計画・整備の一体的な実施により効率的な施設整備に期待 ・政策方針に沿った機動的な対応が容易 ・公募・選定に係る手続きは比較的短い	・民間のノウハウを活用し、維持管理・運営面を考慮した施設計画・整備に期待 ・契約期間を相対的に長く（供用開始後 15 年程度）設定し、運営者側で長期的な体制構築や経営計画による事業展開・施設運営が可能 ・民間資金の活用により財政負担の平準化が可能
デメリット	・施設計画において、運営を考慮した事業者の積極的なノウハウ活用は期待薄 ・指定管理者を原則５年毎に更新する必要があるため、長期的な観点からの施設運営が志向されず、催事育成や人材確保等の長期的な取り組みは実施困難 ・財政負担の平準化は困難 ・設計・施工分離発注のため工期の短縮、早期の供用開始は困難	・施設計画において、運営を考慮した事業者の積極的なノウハウ活用は期待薄 ・指定管理者を原則５年毎に更新する必要があるため、長期的な観点からの施設運営が志向されず、催事育成や人材確保等の長期的な取り組みは実施困難 ・財政負担の平準化は困難	・長期契約が前提のため、政策方針に応じた柔軟な契約変更は困難 ・PFI 法に基づく手続きに一定の期間が必要
評価	△	○	◎
	各業務に関して民間ノウハウを発揮しにくく、事業効果を積極的に期待しづらいことに加え、財政負担の平準化が困難	民間ノウハウの活用範囲が限定的であり、財政負担の平準化が困難だが、従来方式と比べて効率的・効果的な施設計画・整備が可能	民間活力を通じ、運営・まちづくりを見据えた施設計画とともに、SPC を通じた事業マネジメントによる効率的・安定的な事業推進が可能

５－３ 概算事業費・想定スケジュール

（１）概算事業費

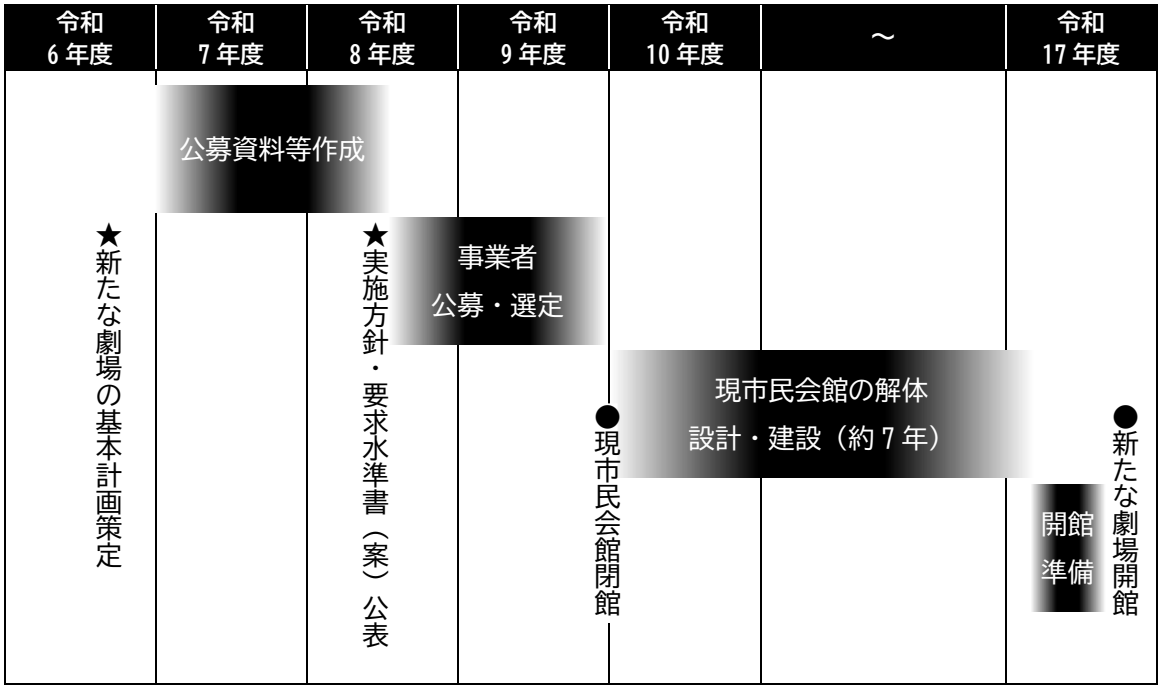
古沢公園・市民会館エリアに関する、既存建物の解体及び新たな劇場の新築に係る概算事業費は、**約５８０億円**※と想定しています。

（※1：令和 6 年 5 月時点の建設物価に基づく試算額
※2：施設の維持管理・運営費は含まない
※3：道路等の周辺インフラ整備費は含まない）

なお、今後、今以上に工事費単価が高騰することも想定される中、詳細な事業費については、本計画に示す機能や品質の確保を図りつつ、事業者公募前の段階において再度検討を行う必要があります。

（２）想定スケジュール

古沢公園・市民会館エリアについて、PFI(BTO)方式による整備を想定した場合のスケジュールは次のとおりです。



現地改築による事業であることから、現市民会館の解体や新たな劇場の設計・建設に７年程度の期間が必要となります。

閉館期間中については、当地域の文化芸術活動の機運を絶やさぬよう、民間も含めたホールの整備状況等を注視しながらできる限りの対応策を検討していきます。

用語説明

[1] ランドマーク	土地の目印となる事物・景観。自然物・建造物を問わないが、目立つこと、特徴があること、永続的であること等が要件とされ、ときには地域の象徴（シンボル）となる。
[2] デスティネーション	旅行の目的地、旅行先のこと。
[3] プロセニアム形式	舞台と客席がプロセニアム（額縁）で明確に区分されている劇場の方式。
[4] 主舞台	舞台の主要部分で、観客席から見える舞台全体の総称。
[5] 側舞台	多面舞台の劇場で、主舞台の上手・下手に主舞台と同じ、または同程度の大きさをもった舞台のこと。
[6] オーケストラ迫り	オーケストラピットを設けるために、必要に応じて床を昇降させるための機構。
[7] オーケストラピット	オペラ、バレエ等でオーケストラが演奏する舞台と観客の間にある一段掘り下げられた場所。
[8] 前舞台	客席に張り出した舞台部分のことをいう。
[9] 奈落	舞台床下の総称。廻り舞台や迫りの機構が設置されている空間。
[10] すのこ	舞台上部の吊物機構を設置する床。
[11] 脇花道	舞台前端から客席側壁に沿って設置された演技空間。
[12] ビュッフェ	開演前や休憩時に軽食や飲み物を提供するホワイエ内のスペース。
[13] 調音室	歌手が舞台に登場する前に声を出して調子を整えたり、演奏者（主にソリスト）が楽器の調整を行ったりする部屋。防音構造となっており、舞台に近接して配置されることが多い。
[14] グリーンルーム	出演者の歓談や来客との面談等のための部屋、または出演者の休憩の部屋をいう。
[15] ウィングルーフタイプ	車体の側面を大きく開放でき、両サイドから荷物の積み下ろしができるトラックのこと。
[16] 調光操作室	舞台照明設備のスポットライト等の調光を操作するための照明操作卓が設置されている部屋。
[17] 音響調整室	音を電気的に「拡声」や「録音」等の操作をするための音響操作卓が設置されている部屋。
[18] フロントサイド投光室	客席の左右両側から舞台へ投射するための演出照明器具が設置されている部屋。

[19] シーリング投光室	客席正面の上部から舞台を照射するための演出照明器具が設置されている部屋。
[20] フォロースポット室	客席側から舞台上の出演者の動きに合わせて動かす照明器具（フォロースポットライト）を設置・操作する部屋。
[21] 投影室	舞台作品の特殊効果や映画の上映のための映像プロジェクターや映写機等が設置されている部屋。
[22] インクルーシブ	社会的に弱い立場に置かれている人たちを排除するのではなく、包摂する社会を築いていこうという考え方。
[23] カーボンニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、その排出量を「実質ゼロ」に抑える、という概念。
[24] グリーンインフラ	自然環境が有する多様な機能を積極的に活用して、地域の魅力・居住環境の向上や防災・減災等の多様な効果を得ようとするもの。
[25] プロモーター	コンサート等の文化芸術公演の企画･運営を業とする者のこと。
[26] アウトリーチ	普段文化芸術に触れる機会が少ない市民等に対して、その生活の場に出向いて行って働きかけを行う活動。
[27] アーカイブ	体系に基づいて整理･保存された記録の集合体や保存所のこと。
[28] 名古屋版アーツカウンシル	文化施策の提言や文化芸術と他分野との連携･波及効果の創出、専門的見地からの文化芸術活動への支援を通じて、文化芸術を推進し、都市の魅力向上を図る新たな文化芸術の推進体制。

名古屋市新たな劇場の基本計画

2025年(令和7年)2月

名古屋市観光文化交流局文化芸術推進課
〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
TEL　052-972-3181
FAX　052-972-4128